ジムビーム、クレルモン蒸留所の操業停止を無期限に延長

ウイスキー需要の低迷と在庫増を理由に、バーボンメーカーのジムビームはクレルモン蒸留所の停止を無期限に延長。ブッカー・ノーでは生産を継続する。

2026年11月22日（日）



ジムビームは、ケンタッキー州クレルモンにある主力蒸留所の生産停止を延長し、蒸留を再開する日程は示していない。

同社は11月22日（日）、今回の判断はウイスキー需要の低迷が続いていることを反映したものだと発表した。報道によると、消費者の習慣や嗜好の変化が需要減速の一因となっている。同社はまた、通常生産をいつ再開できるかを検討するなかで、高水準の在庫にも対処している。

クレルモンの施設は、米国のウイスキー業界で最もよく知られた蒸留所の一つだ。同地での無期限

の操業停止は、米国内外で長年バーボンの象徴とされてきたブランドにとって、注目すべき動きとなる。報道によると、クレルモンが稼働を停止する一方、ブッカー・ノー蒸留所では生産を続けている。

今回の措置は、多くの蒸留業者が事業拡大を進めた好調な成長期とは様相が異なる市場に、蒸留酒メーカーが対応しつつあることを示す動きに加わる。ジムビームの場合、同社によれば、問題は工場の技術的な不具合ではなく、需要減少を受けた経営判断だという。停止がどの程度続くかは明らかにしていない。

同社は市場の状況を見極め、変化にどう対応するかを検討している。報道によると、需要の変化への適応を目指し、新商品の投入や異なるマーケティング手法も選択肢となる可能性がある。クレルモンの再開に関する具体的な計画や時期は発表されていない。

今回の操業停止は一つのブランドにとどまらない意味を持つ。飲料業界では、大規模なバーボン蒸留所が無期限に操業を停止することは、販売の減速や膨らんだ在庫に生産を合わせる、より広範な取り組みの表れとなり得る。この傾向が続けば、穀物、樽、ガラス、包装資材の供給業者に加え、安定した蒸留酒の取扱量に依存する倉庫業者、輸送会社、販売業者にも圧力が及ぶ可能性がある。国際的な買い手や卸売業者も、生産量の変化が出荷計画や価格見通しを左右するため、米国の大手バーボンメーカーの動向を注視している。

報道は、アルコール消費全体に広がる変化にも言及した。飲酒者の減少や飲酒頻度の低下は、蒸留酒の各カテゴリーの需要に影響し得る。なかでも、製造に長い期間を要し、何年もの熟成が必要な製品は影響を受けやすい。バーボンメーカーは、市場が好調だった時期に樽詰めした原酒を短期間でなかったことにはできないため、販売が鈍化すると在庫管理が重要な課題となる。

クレルモンでは再開時期が示されておらず、業界で最もよく知られた蒸留施設の一つがどれほどの期間稼働を停止するのか、不透明な状況が続いている。報道では、雇用や見学者向け業務、その他の地域への影響に関する詳しい情報は示されなかった。同社が市場の動向を引き続き見極める間、施設は無期限で稼働を停止するとだけ伝えている。

ジムビームの判断は、在庫が自然に解消されるのを待つのではなく、生産を直接削減して需要低迷に対応する大手老舗メーカーの姿勢を示しており、ウイスキー業界全体で注目されるだろう。現時点で同社はブッカー・ノーでの生産を続ける一方、クレルモンの再開日程は示していない。